

# かけはし



福島市立平田小学校 学校だより No.22

文責：校長 佐藤 裕子

## ❀ 東日本大震災から12年

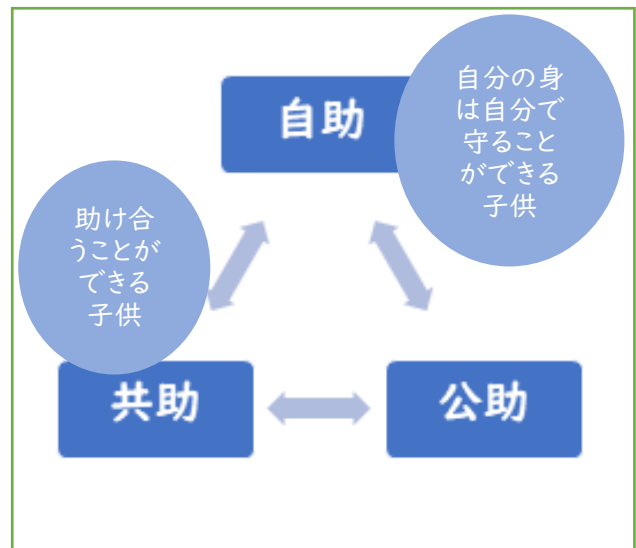
平成23年3月11日午後2時46分。たくさんの尊い命を奪ったあの震災から12年の歳月が経過しようとしています。あの時から、私たちを取り巻く環境は一変し、今も大きな苦しみや悲しみを抱えて生きている方がたくさんいらっしゃいます。

当時(6年生は生まれたばかり)の「フクシマ」は、まさに四重苦(大震災・大津波・原子力災害・風評被害)との闘いでした。そのような中、ご家庭の皆様が必至に子供たちの命を守り、大事に育てられたからこそ、「いま、ここで」日々笑ったり、汗を流したり…「生きている」ことができる、ということに感謝したいと思います。

12年が過ぎても、未だ「フクシマ」は、廃炉・汚染水対策・風評等があり、復興は未だ途上ではありますが、子供たちの元気いっぱいの笑顔を見ると、明るい光は着実に広がっていることを実感します。季節は廻り、子供たちがちゃんと成長しているように、私たち大人も、しっかり前進していかなければならないと思うのです。

明日は、3月11日。この福島に生まれ、育つものとして、子供たちがふるさと福島に誇りを持ち、自らの力で豊かな人生を切り拓いていけるよう、ぜひ、保護者の皆様の3.11の経験と教訓を震災を知らない子供たちにもしっかりとお伝えいただきますようお願いいたします。

災害への備えを考えると、「自助」「共助」「公助」の3つに分けることができます。「自助」とは、災害が発生したときに、まず自分自身の身の安全を守ることです。(この中には家族も含まれます。)  
「共助」とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うことをいいます。そして、市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助が「公助」です。



大規模な地震による犠牲者の多くは、地震発生直後の建物倒壊や家具の転倒によるものであり、東日本大震災では、地震発生後に、巨大な津波が短時間で襲ってきました。こうした地震直後の状況下で、一人一人を助け、守ることに必要不可欠となるのは、自ら守る「自助」と、近隣で助け合う「共助」です。災害発生時だけでなく、日ごろの対策や、それぞれの役割を考え、話し合っておきましょう。

「自助」「共助」「公助」のうち、私たち自身にできるのは「自助」と「共助」。一人一人が、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えを持ち、日ごろから災害に備えましょう。

“日常のあたりまえ”に感謝する3.11に…

今を生きる

# 授業参観・学級懇談・全体会ありがとうございました



※お忙しいところ、全家庭の皆様のご来校ありがとうございました。

3/24卒業式まであと2週間



**\*感染症対策\***

卒業生はマスクをつけずに入場し、卒業証書授与式に参加します(1~5年在校生はマスク着用)。保護者・来賓の皆様にはマスク着用をお願いします。

**決定!**

## “ひらサポ”

平田小応援ボランティアの名称募集・投票へのご協力、誠にありがとうございました。集計の結果、「ひらサポ」と決まりました。(次点は「ひらたまご」)

「ひらサポ」メンバーの第一次募集締め切りは3月16日(木)です。自薦・他薦問いません。奮ってご参加ください。地域の皆様へのお声がけもどうぞよろしくお願いいたします。

**「子供たちの教育のために役に立ちたい!」**  
という熱い思いをお待ちしております。